

地域と密着
希望に応える医療へ

独立行政法人 地域医療機能推進機構

群馬中央病院

| 診 | 療 | 科 | 紹 | 介 |



JCHO

Japan Community
Health care Organization

院長挨拶



内藤 浩
院長兼地域医療連携センター長

診療科紹介をお届けさせていただきます。

新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。地域医療に対する影響は極めて大きく、今までわたくしたちが築いてきた医療・介護・福祉機関の連携や役割分担もダイナミックに変化しています。

わたくしたちは、地域の基幹病院としていかに地域医療を守るか、どのように地域に貢献できるかを常に考えており、現在の急激な変化の中でもできる限り柔軟に地域のニーズに対応できるように体制を整えています。体制を変えていく中で最も重要なことは、当院と連携いただいているみなさまが、当院にどのような機能を期待するか、どのようなご要望があるかをリアルタイムに把握し、それに対して当院の現在の診療科や院内各部門がどのように応えていけるかを調整していくことです。

本冊子は、当院の診療科の最新の状況を紹介させていただいております。高い専門性を持つ科もあれば、「地域包括ケアチーム」のような汎用性の高い科もあります。皆様方には当院の診療科の特性をご承知いただき、日常の臨床にお役立ていただければ幸いです。また、そのうえで、当院に期待される機能、役割分担等ありましたら、忌憚のないご意見をお寄せいただき、当院がより一層地域のご要望にお応えできる組織になれるよう、ご指導いただきたく存じます。

一日も早いコロナ感染症の終息を願っておりますが、まだまだ長期戦を覚悟しなくてはならないようです。みなさまと一緒に、これからも地域住民の健康を守りながら、同時に自院を含めた地域の医療・介護機関の安定的な運営を考えて参ります。

今後ともよろしく願い申し上げます。



群馬中央病院の基本方針

人権の尊重と人間愛を基本とした医療・介護を行い、
地域の方々の健康と福祉の増進に寄与する。

地域医療・地域包括ケア・介護の連携の要として、
超高齢化社会における多様なニーズに応え、
安全・安心・信頼を要とした医療と介護を提供する。

地域の医療・福祉機関との連携を密にし、
地域医療における中核病院としての使命と役割を担う。

透明性が高く自立的な運営のもと、
常に医療・介護水準の向上に努める。

病院キャッチフレーズ

『笑顔で言葉をもって 患者さんの身になって』

02	地域包括ケアチーム／ 地域医療連携センター
04	内 科
08	小児科
10	消化器・肛門疾患センター
13	和漢診療科
14	整形外科
16	産婦人科
18	眼 科
19	耳鼻咽喉科
20	歯 科
21	放射線科
22	病理診断科
23	皮膚科

地域包括ケアチーム

▶ 谷 賢実 (地域医療連携センター長補佐)

「地域包括ケアチーム」は、後方支援医療機関や介護施設、在宅等で療養中に急性期医療が必要になった患者を積極的に受け入れ、後方連携をより円滑に推進することを目標として、2018年6月から活動しています。このような患者は複数の問題点を抱えていることが多いため、各診療科の医師、看護師、地域医療連携センタースタッフでチームを結成し、診療科間の連携をマネジメントし、各科の専門性の隙間を埋める役割を担っています。

また、地域の医療ニーズを満たし、地域包括ケア病棟を有効に活用するために、レスパイト入院や終末期の看取り目的の入院、退院後の多施設・多職種連携まで見据えたクリニカルパス（「肺炎パス」、「摂食機能訓練パス」）を利用した入院を積極的に受け入れています。

地域の皆様と緊密に連携し、チーム一丸となって対応いたしますので、お困りの事例がありましたら、地域医療連携センターへ御相談くださいますようお願いいたします。

2019年度は医療・介護・福祉等の関係者と院内医師を含むスタッフとの連携をとり、生の声をお互いに聞いてもらうことを目的に、包括ケア研究会として、テーマを変えて4回開催しました。

地域からの要望と、病院での取り組みを、グループワークやシンポジウム・講演等にて開催することで、顔の見える連携がとれるよう企画、開催しています。

診療情報提供書や看護記録など、文章のやり取りだけでは見えない、担当者同士の意見交換ができ、お互いの本音を聞くことで、患者さんや患者家族の特徴や背景が分かり、病院からまた在宅へ戻す際の退院支援にも大きく役立っています。

※参考 令和元年度 地域包括ケア研究会開催実績

2019年7月25日 院内47名 院外43名

地域包括における薬剤師の関わり方事例報告

病院薬剤師の立場から 調剤薬局の立場から

訪問看護の立場から 病院医師の立場から

2019年11月7日 院内44名 院外40名

事例報告

摂食機能訓練パスの運用した事例から

院内でのケア・取り組みについて

高齢者施設でのケア・取り組みについて

障害者施設でのケア・取り組みについて



2019年12月13日 院内34名 院外23名

認知症のある高齢者夫婦の事例より

～他者の介入を拒否している患者の関わりから～

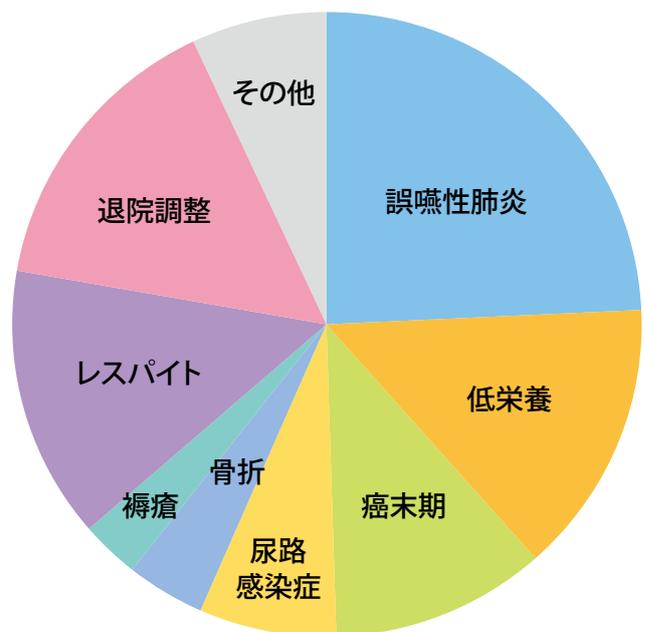
2020年2月13日 院内21名 院外23名

みなさまのもとに伺います

～認定看護師無料派遣について～

計4回 院内112名 院外106名 合計218名

▶ 地域包括ケアチームの活動実績



2018年6月～2019年12月で
計99名の患者を受け入れ

地域医療連携センター

▶内藤 浩〈地域医療連携センター長〉／谷 賢実〈地域医療連携センター長補佐〉

地域医療連携室

医療機関からの【受け入れ総合窓口】として、年間1万人以上来院される紹介患者さんの受け入れ対応・来院報告・返書管理・救急車対応等を行っています。医療機関への訪問活動を行い、地域医療連携の推進を図っています。

また、各種講演会を企画運営し、医療従事者や一般の方へ情報発信しています。



医療福祉相談室

患者相談窓口では、患者さんの総合相談窓口としてあらゆる相談に応じています。がん相談支援センターでは、がん患者さんや家族からの心理的・社会的相談に応じています。退院支援は、週に一度患者支援室と一緒に病棟とカンファレンスを開催して、担当医や病棟スタッフと協力し、患者さんによりよい支援ができるよう取り組んでいます。



患者支援室・入退院センター

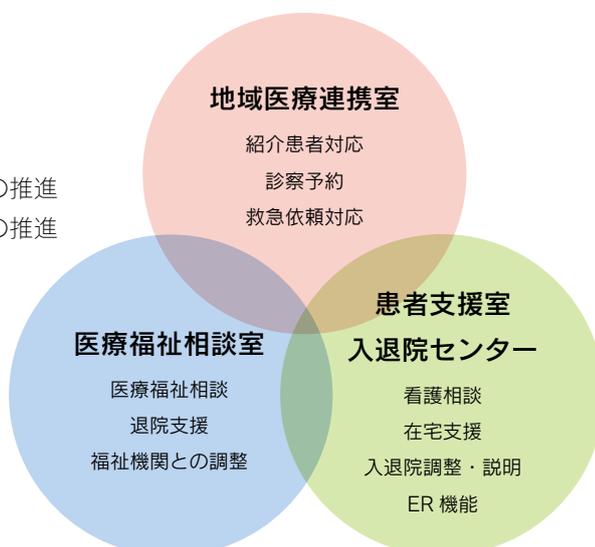
当院では、小児・産科を除く、すべての入院患者さんに対し入院時スクリーニングを実施しています。その中から退院支援が必要な方を抽出し、患者さん・家族が安心して在宅へ戻れるよう、様々な相談に応じています。

また、入院案内業務がワンストップで行え、他部門へ連携することにより患者満足度の向上と業務の効率化を図ります。地域包括ケア病棟や附属老健とも連携し、入院前から退院支援の方向性を多職種で支援する体制を整えます。



▶目標

- 地域医療連携・地域包括ケアの推進
- 多職種協働によるチーム医療の推進



内科

▶ 診療体制・スタッフ紹介／今井 邦彦〈医務局長兼健康管理センター長兼内科主任部長〉

当院内科は内科一般（プライマリーケア）の対応に加えて循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病・内分泌疾患、神経（内科）疾患の各専門分野に対応できる診療体制を整えております。「患者様・御家族様に満足いただける医療」を提供することを目標にプライマリーケアから高度専門医療まで幅広く対応していることを特徴としております。

内科外来では平日の午前中に総合内科外来を設置しており、初診の患者様と紹介患者様の診療に対応しております。当院の総合内科専門医のほか群馬大学総合診療部などから派遣された医師が初期診療・治療にあたります。より高度な治療が必要な場合には内科各専門部門や院内のすべての他科と連携して適切な検査・治療が受けられるようにマネジメントがなされております。

当院では患者様の紹介窓口としての機能や複数科紹介の効率化、医師の診療効率アップを図る目的で地域医療連携室を通じての外来受診・検査予約・入院依頼を受けるシステムを採用しております。

当院の専門外来としては、平日午後に呼吸器専門外来を開設しております。群馬大学と前橋日赤病院の呼吸器内科専門医にご協力いただき、連携を取りながら呼吸器



感染症・肺悪性腫瘍・アレルギー性疾患・喘息などの疾患に対応しております。また、糖尿病に関しては2017年に糖尿病センターを開設し、糖尿病専門医による地域医療に密着した病診連携の診療形態が確立し症例数が増加してきています。

各医療機関の先生方からのご紹介に際しましては「紹介患者様はお断りをせず、速やかな診察・治療を誠意をもって行う」を基本姿勢として医療を継続しております。今後とも当院内科をよろしくお願いたします。



▶ 医師紹介

● 医務局長兼健康管理センター長兼内科主任部長 今井 邦彦

昭和62年卒（医学博士）／日本内科学会総合内科専門医／日本循環器学会循環器専門医／日本医師会認定産業医／日本プライマリ・ケア連合学会認定医指導医／日本人間ドック学会健診指導医・健診情報管理指導士・健診専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医
【専門分野】 循環器内科・一般内科

● 糖尿病・内科部長 田嶋 久美子

平成4年卒（医学博士）／日本内科学会総合内科専門医／日本糖尿病学会専門医／日本医師会認定産業医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医
【専門分野】 糖尿病

当院の循環器内科・心臓カテーテル室は、ガイドライン・エビデンスに基づいた、安全で質の高いカテーテル検査・治療の提供に取り組んでいます。

2019年度には心臓カテーテル室がリニューアルされました。最新のCanon製アンギオ装置が導入され、より少ない造影剤、より少ない放射線被ばくで、より鮮明な画像を得ることが可能となっています。これにより、更に安全で低侵襲なカテーテル検査・治療に繋がっていきたいと考えております。5月下旬より新しいアンギオ装置が稼働していますが、より鮮明な画像と共に、造影剤量・被ばく量の低減が既に確認されています。

当院の心臓カテーテル室は2018年から日本心血管インターベンション治療学会の連携施設として施設認定され、今後は研修関連施設の認定を目指しています。心臓カテーテル検査件数・治療件数はここ数年横ばいですが、FFR検査件数が増加しています。FFR検査は、冠動脈造影による形態学的狭窄に加えて、狭窄前後の血管内圧を測定することで、機能的に心筋が虚血に陥っているか調べる検査で、ガイドライン・エビデンスで推奨されています。

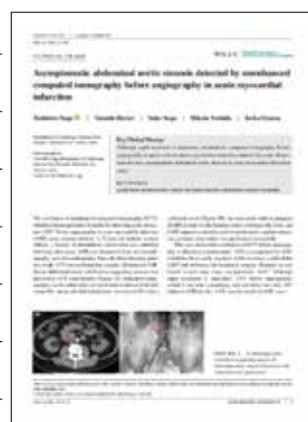
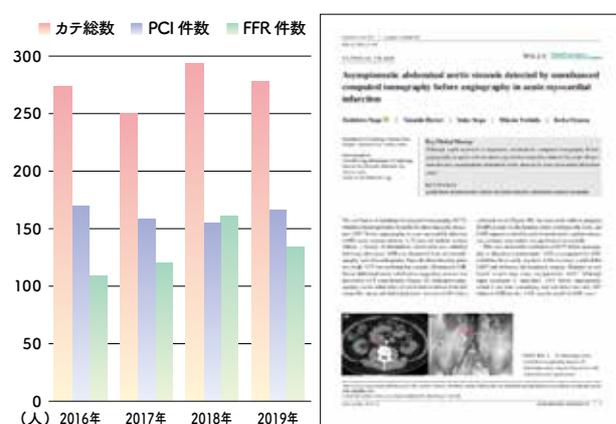
2014年度より低侵襲で、術後合併症の少ない手首からのカテーテルを導入し、2018年度はカテーテル全体

の82%を手首から実施しています。

学会・研究活動にも取り組み、新しい技術・知識の吸収と共に、自分達の行っている検査・治療の検証を行っています。2019年度はJournal of Invasive Cardiology誌に論文がアクセプトされました。

また、新しい心筋虚血評価法であるFFR(冠血流予備量比)検査を新たに導入し、年間100件以上実施しています。

今後も安全で質の高い循環器診療を心掛けていきます。引き続き当院・当科へのご紹介よろしくお願い申し上げます。



●循環器・内科部長 羽鳥 貴

平成5年卒(医学博士) / 日本循環器学会循環器専門医 / 日本内科学会認定医 / インфекションコントロールドクター / 難病指定医

●循環器・内科医長 吉田 尊

平成7年卒(医学博士) / 日本内科学会総合内科専門医 / 日本循環器学会循環器専門医 / 身体障害者福祉法指定医

●循環器・内科医長 須賀 俊博

平成14年卒(医学博士) / 日本内科学会認定医 / 日本循環器学会循環器専門医 / 日本心血管インターベンション治療学会認定医 / 身体障害者福祉法指定医 / 難病指定医 / 第21回 beyond angiography japan, gold award / 第241回日本循環器学会関東地方会YIA特別賞【専門分野】狭心症・心筋梗塞に対するカテーテル治療



●内科医長 阿久澤 暢洋

平成12年卒(医学博士) / 身体障害者福祉法指定医 / 難病指定医 / 日本循環器学会循環器専門医 / 日本内科学会認定医 / 日本内科学会総合内科専門医

●循環器・内科医長 大山 啓太

平成15年卒 / 総合内科専門医 / 身体障害者福祉法指定医 / 難病指定医

●内科医員 長谷川 典子

平成6年卒 / 難病指定医

●内科医員 山口 実穂

平成29年卒

平成 25 年 4 月から神経内科部門を担当させていただいております大沢と申します。神経変性疾患を中心に、神経疾患全般に関しての診療に携わっております。

神経変性疾患はその多くが認知症状を伴うことをご存じの通りです。本邦は現在、歴史上前例を見ない高齢化社会へ向かって進んでおり、認知症患者数も右肩上がりで増加中です。直近の厚生労働省の調査によれば国内の認知症患者数は 300 万人を超えるとされ、ここ 10 年間でほぼ倍増しています。平成 24 年の厚生労働省認知症プロジェクトチームの報告では「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会の実現を目指す」ことが明記され、我々の役割としては早期診断・早期支援の確立などが重要と考えております。

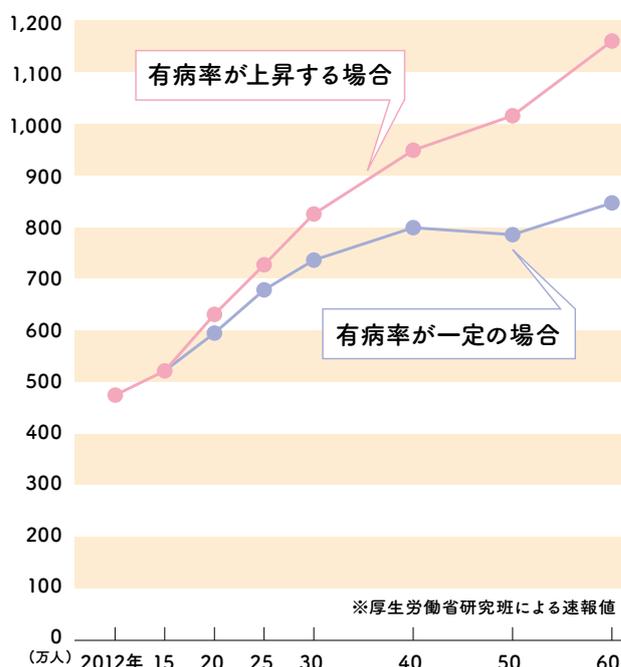
アルツハイマー型認知症は、認知症を来す神経変性疾患のうち最大のものです。当院では**早期アルツハイマー型認知症診断支援システムである VSRAD による MRI 撮影が可能**ですので、これにより早期診断へつなげ、かかりつけ医の先生方のお力になれればと思います。

また、もう 1 つの代表的な神経変性疾患としてパーキンソン病があげられます。パーキンソン病の薬物療法の限界として、罹病期間の長期化とともに運動合併症（ウェアリング・オフ現象やジスキネジア）の問題があげられ

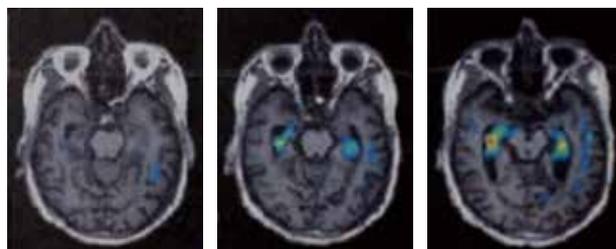
ます。当院では**ウェアリング・オフ現象の改善効果が期待できる本邦初の自己注射製剤であるアポモルヒネ注も採用**されており、まだ症例数は少ないですが適応のある患者さんに対して注射指導など行っております。

神経変性疾患の診療・介護は様々な分野の方々のお力添えが必要です。かかりつけ医の先生方や地域の包括介護支援センターとの円滑な連携に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

▶ 認知症の人の将来推計



▶ VSRAD によるアルツハイマー型認知症の評価



▶ 医師紹介

● 神経内科医長 大沢 天使

平成 9 年卒 (医学博士) / 身体障害者福祉法指定医 / 難病指定医



カンファレンス



認知症回診

〔医師紹介〕

根岸真由美（糖尿病センター長兼糖尿病・内分泌内科部長）
 須賀俊博（循環器・内科医長）
 登丸琢也（非常勤）
 有山泰代（非常勤）

外来療養指導：看護部5名、栄養管理室7名、
 薬剤部2名、検査部3名

糖尿病認定看護師：1名

特定行為看護師：2名

日本糖尿病療養指導士（CDEJ）：14名

群馬県糖尿病療養指導士（G-CDEL）：10名

〔特色〕

当院は2017年4月1日より日本糖尿病学会認定教育施設1群として認定を受け、糖尿病センターが開始しました。

外来は糖尿病診療においては常勤医2名と火曜日午前の有山泰代医師を中心に、内分泌疾患については金曜日午前の登丸医師を中心に診療を行っております。

2019年度、新たに糖尿病認定看護師が誕生し、入院患者の指導、外来での療養指導、腎症予防指導、入院における糖尿病教育等、幅広く活躍しております。さらに同年より特定行為看護師2名が誕生し、常時入院患者数名を受け持ち、インスリン投与量の調整を行い、また退院後のインスリン量調整についてもアドバイスを行っております。

外来、病棟ともに多職種のスタッフが新たに日本糖尿病療養指導士（CDEJ）、群馬糖尿病療養指導士（G-CDEL）を取得し、入院外来共に指導体制を整えています。

当センター外来では採血採尿、生理検査、眼科を含む他科紹介受診等を行います。さらに可能な限り全ての患者さんに栄養指導を管理栄養士が施行、さらに生活療養指導を看護師が担当、インスリン自己注射指導を薬剤師、自己血糖測定指導を臨床検査技師が行うなど、センター内で多職種が協力して行っています。

また腎症2期以上の患者さんに対し、早期の段階から腎症予防指導として栄養指導、生活療養指導を行い、糖尿病腎症の進展や透析への移行を防止するよう努めています。

足病変の予防としては、フットケア外来を火曜日午後開設しています。午前診察時に足のチェックを行い、治療が必要な病変は皮膚科紹介等を行い、治療が一段落した後に予防的フットケアを施行しています。

糖尿病学習入院では2週間（15日）のクリニカルパスを中心に、予約入院を行っております。また、個別の事情に合わせて1週間（8日）や3日間の期間の短縮パスも使用しています。入院中は食事療法や糖毒性解除のためのインスリン療法、糖尿病教室や家族同伴の栄養指導、リハビリ室での運動などを行い、生活習慣の改善を目指しています。



当センターは糖尿病医療連携を推進し、連携パスを使用しています。基本的な流れは、かかりつけ医の先生からご紹介いただき、初診時に基礎疾患や合併症の有無をチェックします。その後、適応あれば入院予約と説明を実施し、院内クリニカルパスによる学習入院を行います。退院約2週間後に自宅での療養状況をチェックし、連携センターを介して逆紹介を行います。連絡ツールは糖尿病連携手帳、薬手帳、自己血糖測定ノート（施行者のみ）です。

当院では約4か月後に栄養指導、その後は約半年毎に栄養指導と共に特殊心電図や腹部エコー等を分散して施行し、糖尿病患者の合併症予防に努めております。また随時、栄養指導や検査のみの依頼にも対応しています。

2019年度
 紹介患者数 388名
 新規入院数 117名
 インスリン導入 117名
 外来栄養指導 779件
 透析予防指導 51件
 フットケア（合併症管理） 26件

▶ 医師紹介

●糖尿病センター長兼糖尿病・内分泌内科部長 根岸 真由美

昭和62年卒（医学博士）／日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医／日本糖尿病学会専門医・研修指導医／日本医師会認定産業医／臨床研修指導医／難病指定医

小児科

▶ 診療体制・スタッフ紹介／河野 美幸〈小児科部長〉

〔スタッフ〕

常勤医：田代雅彦（名誉院長）、須永康夫（主任部長）、河野美幸（部長）、水野隆久（医長）、春日夏那子（医員）、橋本真理（医員）、岩脇史郎（医員）、高橋 駿（医員）、坂本康大（医員）計9名

〔特色〕

平素より大変お世話になっております。

小児科は、4月からフレッシュなメンバーが3名入れ替わり、9人体制にて診療しております。外来診療では、午前は上級医が紹介患者を中心とする一般外来を、救急車対応は若手医師中心に対応しています。午後は予約制の外来で、循環器外来・神経外来・腎臓外来・アレルギー外来・発達フォロー外来それぞれ医師の退院後のフォロー外来を行っております。循環器外来は田代先生を中心に、学校健診や先天性心疾患、川崎病 follow など大きく貢献されております。また、予防接種・乳児検診は常勤医が対応しております。

入院病床は、一般小児病床40床、新生児病床16床となっております。一般小児病棟は、2019年度1633人の入院に対応しました。定期予防接種が充実され、感染症罹患の機会や重症化し入院する患者さんは減少しております。しかし、RSV感染者は春から夏にかけて流行がみられ、多数の入院患者がおり、季節性がなくなってきた印象があります。急性感染症や川崎病、食物アレルギー、低身長や体重増加不良などの負荷試験といった



比較的短期入院の疾患などの他、腎疾患、神経性食欲不振症、神経疾患といった学童期の長期入院患者にも対応しております。当院では、養護学校が併設され、連携をとりながら心身の成長と療養を心がけています。

新生児は、地域周産母子センターとして、院内外から365日受け入れをしております。2019年度は203名の入院がありました。当院では、年間600例前後の分娩があり、若年・高齢出産、合併症妊娠なども多く、定期的に周産期カンファレンスを行い、連携をとりハイリスク出産に対応しております。胎児27週以上を対象とし、先天奇形症候群や染色体異常の児など、退院後の医療ケアやリハビリテーションが必要になる患者さんもあり、患者さんと家族を中心とした医療を目指し、チーム医療を心がけています。

医療的ケアが必要な児の退院時や、複雑な家族環境で環境整備が必要な場合には、院内外の多職種で情報共有の場を持ち、連携を大切にしています。

今後も地域の基幹病院として新生児を含めた小児に充実した医療を提供できるよう、日々努力して行きます。今後ご指導の程、よろしくお申し上げます。

入院患者総数



紹介患者数



▶ 〈小児科〉医師紹介

●名誉院長 田代 雅彦

昭和51年卒（医学博士）／日本小児科学会専門医・指導医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医／小児慢性特定疾病指定医
【専門分野】一般小児、小児循環器

●小児科主任部長 須永 康夫

昭和59年卒（医学博士）／日本小児科学会専門医／日本小児神経学会小児神経専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医／小児慢性特定疾病指定医
【専門分野】一般小児、小児神経

●小児科部長 河野 美幸

平成5年卒／日本小児科学会専門医・指導医／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コースインストラクター・周産期専門医／難病指定医／小児慢性特定疾病指定医／身体障害者福祉法指定医

●小児科医長 水野 隆久

平成11年卒／日本小児科学会専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医／小児慢性特定疾病指定医
【専門分野】呼吸器アレルギー

●小児科医員 春日 夏那子

平成23年卒

当院小児科は、4月からフレッシュなメンバーが3人入れ替わり、名誉院長含め9人体制で診療を行っております。常勤医による循環器、神経・発達、新生児・発達、呼吸器アレルギー、腎臓など専門的外来その他、必要時は群馬大学、小児医療センター、他の専門医と連携を取り、

新生児から、思春期の少年少女まで、患者さんご家族に寄り添いながら、最善の医療を提供できるよう心がけています。地域の皆さまのお役に立てるよう、スタッフ一丸となって診療していきたくと思います。

須永 康夫 先生



定年延長期間も過ぎ、現在特例延長で外来診療を行っております。今年和文と英文の論文2編を書き、老化防止に努めております。痙攣性疾患を中心にこれまでの経験と知識で対応します。ADOS検査で自閉症の診断も行っております。よろしくお願いいたします。

田代 雅彦 先生



病院長を卒業して2年経ちます。小児科外来医として活動中です。循環器もさせてもらっています。
今年、小児医療センター新井先生もお手伝いをお願いしています。よろしくお願いいたします。

水野 隆久



アレルギー外来では、今年度より呼気NO（一酸化窒素）測定が行えるようになりました。フローボリューム曲線とあわせて、喘息など、呼吸機能検査をご希望される患者さんは、ご紹介ください。

橋本 真理



山梨大学を平成23年に卒業しました。子ども達がのびのびと健やかに過ごせるように、微力ながら貢献していきたいと思っています。育児にも奮闘中です。まだまだ力不足ですが、ご指導よろしくお願いいたします。

河野 美幸



新生児の集中管理から発達発育にわたり、チームワークを大切に診療しています。アレルギーでお困りの方々等も、御紹介お待ちしております。

春日 夏那子



平成24年度東京医科大学を卒業し、初期研修を経て群馬大学小児科に入局いたしました。当院での勤務は4年目となります。現在妊娠中で、7月から産休をいただく予定となっております。今後とも育児と仕事の両立を目指し邁進して参る所存です。何卒よろしくお願いいたします。

岩脇 史郎



3歳の息子の成長と笑顔に癒されています。4月から毎週金曜日午後小児腎臓外来を担当しております。若輩者ではございますが、尿所見異常や夜尿症など腎疾患でお困り際にはご紹介下さい。

高橋 駿



卒後6年目になり、当院には昨年4～9月までの半年間勤務し、群馬大学病院を経て戻って参りました。まだ専門はありませんが、幅広く経験したいと思っています。よろしくお願いいたします。

坂本 康大



今年からお世話になっております。小児科1年目です。病院では主に予防接種や病棟での診療などを担当しています。まだ未熟で多々ご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いいたします。

●小児科医員 橋本 真理
平成23年卒

●小児科医員 高橋 駿
平成27年卒

●小児科医員 岩脇 史郎
平成25年卒／日本小児科学会専門医／小児慢性特定疾病指定医

●小児科医員 坂本 康大
平成30年卒

消化器・肛門疾患センター

外科

▶ 福地 稔 (外科主任部長)

【スタッフ】

常勤：内藤 浩 (病院長兼消化器・肛門疾患センター長兼地域医療連携センター長)、福地 稔 (外科主任部長)、谷 賢実 (外科部長兼地域医療連携センター長補佐)、深澤孝晴 (医長)、斎藤加奈 (医長)、田部雄一 (医長)、西川達也 (医員)、岩崎竜也 (医員) 計 8 名

【特色】

当院の外科は常勤医 8 名の診療体制で、食道、胃、大腸等の消化器癌手術を中心とした消化器外科全般、小児外科全般および一般外科の治療に対応し、救急患者さんの診療にも積極的に対応している。乳腺・甲状腺、呼吸器、肝胆膵疾患については、群馬大学附属病院外科診療センターのスタッフによる専門外来を開設し、大学病院外科と連携して診療を行っている。当科の特色として、外科と消化器内科の診療を能率的・合理的に行うために「消化器・肛門疾患センター」を設置して、外科と消化器内科が 1 つのチームとなって診療に当たっている。また、毎週火曜日にカンサーボードを行い、各診療科の医療スタッフが同席して、癌患者さんを中心に症例検討会を行っている。

手術に関しては、鏡視下手術、機能温存手術から拡大手術、化学療法後の手術まで様々な術式を行っている。令和元年度の手術件数は 562 件であり、低侵襲な鏡視下手術件数が 306 件と全体の 55% を占めている。食道、胃、大腸の消化管癌では、全体の 81% (164 件中 133 件) に鏡視下手術が行われている。胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術 (LECS) や直腸腫瘍に対する経肛



門的内視鏡下手術 (TEM) 等の特殊な手術も適応症例に対して行っている。

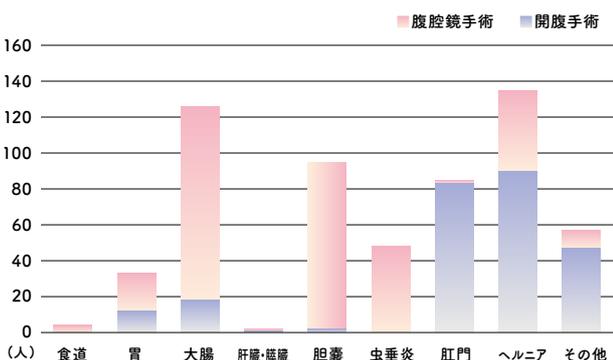
消化器癌を中心とした化学療法および緩和医療にも取り組んでいる。消化器癌の化学療法件数は 919 件であり、抗癌剤とともに分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬も積極的に導入している。最新の標準化学療法に対応できるように個々の患者さんに適した治療を提供している。

今後も診療ガイドラインを準拠した質の高い医療を提供できるように診療体制を整え、地域医療の基幹病院として貢献できるように努めていく。また、近年は若手医師の外科離れが進んでおり、研修医や医学部の実習生に対して、少しでも外科の魅力を伝えられるように指導し、若手外科医の育成に努めていきたい。

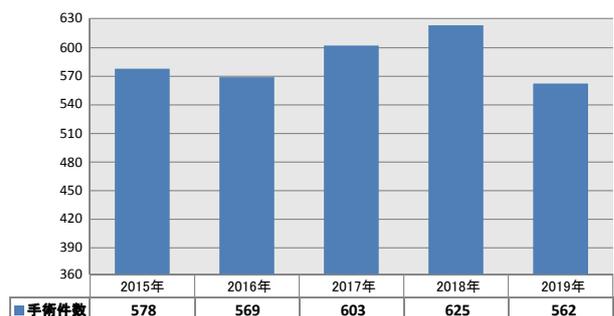


カンサーボード

▶ 2019年度手術件数



過去5年間の手術件数



消化器内科

令和2年度は常勤医4名となり、非常勤医を合わせ11名で消化器疾患全般の診療にあたっています。常勤医4名中3名は日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会の専門医として、確かな医療技術と専門知識で高度な、より質の高い医療を引き続き提供してまいります。また、一般内科医として消化器疾患以外の疾患の診療にも広く対応しております。

当院では毎年約11,000件の内視鏡検査・治療を行っています。県内屈指の内視鏡件数を維持しており、その大部分を当科が担っています。内視鏡部門は、VPP（症例単価払い）契約により常に最新の内視鏡機器を揃え、詳細な観察、的確な診断に基づき、ポリペクトミー、EMR、ESDなどの内視鏡治療を行っています。正確な診断、高度な内視鏡治療を提供するだけでなく、症例に応じてスコープを使い分け、必要に応じて鎮静剤や鎮痛剤を使用し、苦痛の少ない内視鏡検査で患者さんにより満足していただけるよう心掛けています。

肝疾患については、3名の肝臓専門医を中心に肝疾患専門医療機関として肝疾患拠点病院である群馬大学や近隣の病院、診療所と連携し診療にあたっています。群馬大学や自治医科大学の肝臓領域における臨床研究にも参加しています。当科ではC型肝炎に対する直接作用型抗ウイルス薬（DAA：direct antiviral agent）治療の導入を積極的に行っています。治療前の薬剤耐性検査結果や合併基礎疾患に応じてDAA薬の選択を適切に行い、高いウイルス排除率が得られています。また、きめ細やかな経過観察により肝細胞癌の早期発見に努め、肝細胞癌に対してTACE・TAIや人工胸水・腹水下のラジオ波焼灼術（RFA）も積極的に行っています。NASHや自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、薬剤性肝機能障害などの診断と治療、胃食道静脈瘤や肝硬変、肝不全（難治性腹水、肝性脳症など）の専門的な加療も行っています。

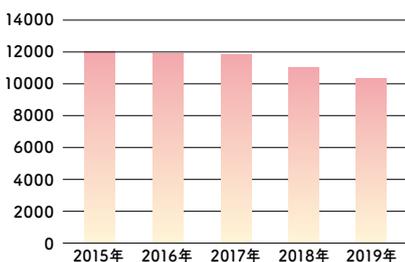
▶ 湯浅 和久 〈消化器内科部長〉



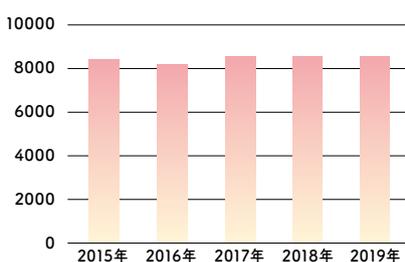
当科には胆・膵疾患の経皮的な手技、内視鏡手技の両方に対応可能な医師が多く在籍しており、胆膵疾患の診療も積極的に行っています。特に、緊急胆摘術の対象とならない急性胆嚢炎に対する経皮経肝胆嚢穿刺吸引術／ドレナージ術、総胆管結石性胆管炎に対する内視鏡治療は迅速に施行しております。術後例に対するダブルバルーン内視鏡を用いた胆管処置にも可能な範囲で対応しております。

当科は、外科との連携が緊密であり、外科・消化器内科外来、8階病棟の消化器・肛門疾患センターで消化器外科と一つのチームとして患者さんの診療にあたっています。カンファレンスで科内の情報共有を行うだけでなく、病棟カンファレンスやがんセンター等の合同カンファレンスにより他科との連携も緊密にとれており、個々の症例に対して迅速に対応できていると自負しています。患者さんや地域の先生方からのニーズの多い消化器疾患の診療を高いレベルで実現すべく、最新の設備と質の高い医療技術を基盤に、患者さんの考えを尊重する全人的な医療を心掛け、日々診療していきたいと考えています。

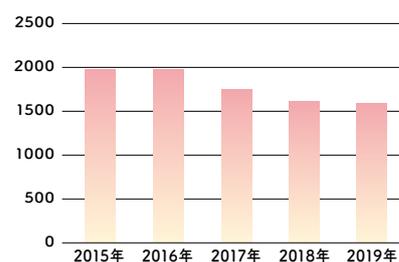
内視鏡室検査総数



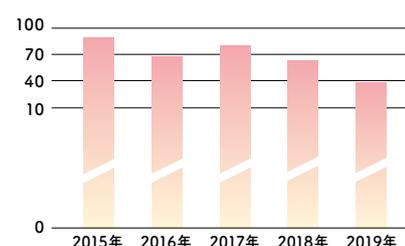
上部内視鏡検査



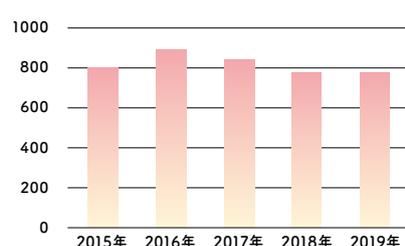
下部内視鏡検査



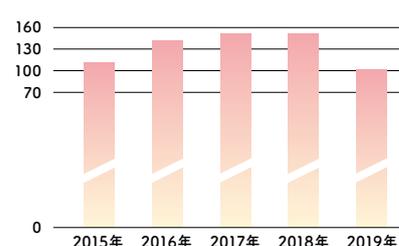
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）



内視鏡的粘膜切除術・ポリペクトミー



膵胆管系検査・治療（ERCPなど）



上部消化管内視鏡検査（EGD）8517件、下部消化管内視鏡検査（CS）1529件、内視鏡的粘膜切開術（EMR）・ポリペクトミー785件、内視鏡的粘膜切開剥離術（ESD）39件（食道2件、胃29件、大腸8件）、ERCP102件（ERCP1件、乳頭切開術・拡張術30件、チューブステント留置25件、メタリックステント留置19件、採石術15件、砕石術12件）、内視鏡的止血術55件（上部28／下部27）、内視鏡的食道静脈瘤硬化術・結紮術8件、カプセル内視鏡検査9件、肝生検13件、DAA（direct antiviral agent）新規導入13例、ラジオ波焼灼術（RFA）17件、TACE・TAI11件

化学療法室

抗がん化学療法は、新しく開発・承認された抗がん剤や分子標的薬の出現により年々治療の選択肢が増え、多様化・複雑化しています。患者さん一人ひとりに最適な治療が行えるよう、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー等の多職種が連携して診療にあたっています。近年、がん化学療法は入院から外来への移行が進んでおり、最新の化学療法を安全、快適に行えるように、外来化学療法室（リクライニングチェア 4床、ベット 2床、計6床）が整備されており、専従職員が配備されています。安全で質の高い外来化学療法を提供することにより、患者さんの Quality of Life 向上を目指しています。



▶ 〈外科〉医師紹介

●院長兼消化器・肛門疾患センター長

兼地域医療連携センター長 **内藤 浩**

昭和 61 年卒（医学博士）

日本外科学会専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医／日本消化器病学会専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本消化管学会胃腸科専門医・指導医／日本静脈経腸栄養学会認定医／日本がん治療認定医機構暫定教育医／日本腹部救急医学会評議員／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

【専門分野】

消化器外科、特に胃・大腸の外科、痔疾患の外科

●外科主任部長 **福地 稔**

平成 4 年卒（医学博士）

日本外科学会専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医・評議員／日本消化器病学会専門医／日本消化管学会胃腸科専門医・指導医／日本食道学会食道科認定医・評議員／日本気管食道科学会気管食道科専門医・評議員／日本がん治療認定医機構認定医／日本臨床外科学会評議員／難病指定医

●外科部長兼地域医療連携センター長補佐 **谷 賢実**

平成 3 年卒（医学博士）

日本外科学会専門医／日本消化管学会胃腸科専門医・指導医／日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医／日本がん治療認定医機構認定医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医／日本DMAT

●外科医長 **深澤 孝晴**

平成 12 年卒（医学博士）

日本外科学会専門医／日本消化器病学会専門医／日本がん治療認定医機構認定医／日本外科感染症学会ICD／日本消化管学会胃腸科専門医・指導医／難病指定医／身体障害者福祉法指定医

●外科医長 **斎藤 加奈**

平成 12 年卒（医学博士）

日本外科学会専門医／日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医／日本消化器病学会専門医／日本がん治療認定医機構認定医／日本消化管学会胃腸科認定医・消化器がん治療認定医／日本消化器胃腸科専門医・胃腸科指導医・代議員／日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科）／マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定検診マンモグラフィ読影認定医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●外科医長 **田部 雄一**

平成 14 年卒（医学博士）

日本がん治療認定医機構認定医／身体障害者福祉法指定医／日本外科学会専門医／日本消化器病学会消化器病専門医／日本消化管学会胃腸科専門医／マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定検診マンモグラフィ読影認定医／身体障害者福祉法指定医

●外科医員 **西川 達也**

平成 21 年卒／日本外科学会専門医

●外科医員 **岩崎 竜也**

平成 28 年卒

▶ 〈消化器内科〉医師紹介

●消化器内科部長 **湯浅 和久**

平成 9 年卒

日本肝臓学会肝臓専門医／日本内科学会認定医／日本消化器病学会専門医／日本消化器内視鏡学会専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●消化器内科医長 **堀内 克彦**

平成 10 年卒

日本肝臓学会肝臓専門医／日本内科学会認定医／日本消化器病学会専門医／日本消化器内視鏡学会専門医／身体障害者福祉法指定医／日本医師会認定産業医／難病指定医

●消化器内科医長 **田原 博貴**

平成 15 年卒（医学博士）

日本消化器内視鏡学会専門医／日本肝臓学会専門医／日本消化器病学会専門医／日本内科学会認定医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●消化器内科医員 **小川 綾**

平成 26 年卒

日本内科学会認定医

和漢診療科

▶ 診療体制・スタッフ紹介／小暮 敏明〈和漢診療科主任部長〉

「和漢診療科」は平成 22 年4月に設置／開設され、一般西洋医学と漢方内科を実践する稀有な診療科として機能しています。これまで異医師・原田医師のご尽力をいただいておりますが、本年6月から小暮部長と山本医師による診療体制で、漢方内科全般・リウマチ性疾患を中心に診療にあたっています。漢方診療はプライマリーケアから難治性疾患まで多彩な疾患に対応していますが、特に**慢性炎症性疾患・アレルギー性疾患・機能的疾患がよい適応**になります。**不定愁訴**の方はご自身で受診する場合がございます。不定愁訴の方を含め、漢方治療を希望される患者さんやリウマチ性疾患の患者さんは当科への御紹介をお願い致します。和漢診療科への診療情報提供書を記述する際に「戸惑いがある」という諸先生方の



ご意見をお聞きしています。一般の病状と場合によっては「ご本人が希望している」とのコメントで結構でございますのでよろしくお願い申し上げます。

▶ 診察内容

★漢方内科：加齢に伴う体調の変化（更年期症候群、老年期の体力低下など）、冷え症などの体質的な問題、自律神経失調症など心と身体の異常が絡み合った疾患などは漢方治療の適応範囲です。陰陽虚実・気血水など独自の理論を重視しますが、それとともに現代医学的な検査を参考にして処方決定しています。エキス剤や生薬（図 1）による煎じ薬の処方を行っています。

★専門外来：リウマチ：**通院患者の 15-20%は関節リウマチ（RA）の患者です。**RA の治療は、近年大きく変化しました。「より早期に治療介入し、タイトに疾患活動をコントロールすることが最良のアウトカムを生む」ことが、世界の標準的な趨勢となりました。RA と診断し

た患者に対しては、漢方薬・MTX を中心とした抗リウマチ薬の使用を原則としています。生物学的製剤は、15-20%の方に投与されています。一方、診断未確定関節炎や、有害反応（間質性肺炎など）・合併症（悪性腫瘍・非定型抗酸菌症・結核の既往など）によって強力な抗リウマチ薬の投与が困難な症例に対しては、積極的に漢方薬を使用しています。**RA の他に、強皮症、シェーグレン症候群などの膠原病患者も当科で加療**しています。これらの疾患は全身を診る必要があり、当院の各専門科や他の特定機能病院と連携を密にして診療しています。

▶ 医師紹介

●和漢診療科主任部長 小暮 敏明

昭和 62 年卒（医学博士）／日本内科学会認定医／日本東洋医学会専門医・指導医・代議員／和漢医薬学会評議員／日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員／日本リウマチ財団登録医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医／Evidence based complementary & alternative medicine (Cairo, Egypt)・OA publishing (London):Evidence based medicine 編集委員

●非常勤医師 山本 佳乃子

平成 13 年卒／日本内科学会認定医／日本東洋医学会専門医



図 1
栽培された代表的な生薬「麻黄」
（@星薬科大学薬用植物園）

最近の話題

昨年（2019 年）、内閣官房 健康医療戦略推進本部「アジア健康構想」プロジェクトの一つに「漢方に関するサブワーキンググループ」が組織されました。当科の部長も構成員として参加しており、これまでに蓄積されたエビデンスを如何に発信していくか議論されています。

整形外科

▶寺内 正紀（副院長兼整形外科主任部長兼リハビリテーション部長）／堤 智史（整形外科部長）

【スタッフ】

常勤：寺内正紀（副院長兼整形外科主任部長兼リハビリテーション部長）、堤 智史（整形外科部長）、中川由美（医長）、畑山和久（医長）、中島飛志（医長）、下山大輔（医員） 計6名

【特色】

当科の診療内容の特色は ①膝関節に対する鏡視下手術 ②膝疾患に対する関節形成術や人工関節置換術 ③脊椎変性疾患や脊椎外傷に対する脊椎手術 ④高齢者脊椎圧迫骨折や椎間板ヘルニアなどに対する保存的治療 ⑤高齢者大腿骨近位骨折に対する骨接合術や人工骨頭置換術 ⑥下肢スポーツ障害 ⑦運動療法を主とした各種リハビリテーションなどである。

手術のほとんどが全身麻酔での入院手術であることが当院の特徴である。毎週金曜日朝8時より、次週の手術症例を中心にカンファレンスが行われている。これには放射線科医師も毎回出席し、画像診断上の確かな助言が得られる。また、病棟看護師、手術室看護師、外来看護師、理学療法士など治療にかかわるさまざまな職種も同席し情報を共有している。

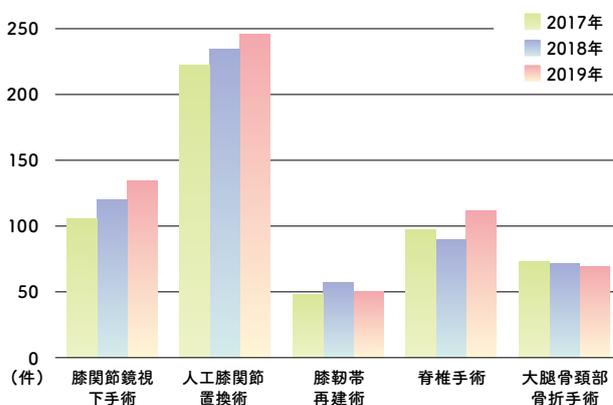
膝関節手術は、人工膝関節置換術、関節鏡下半月板切除術、前十字靭帯 (ACL) 形成術が大部分を占め、県内各地から患者さんの来院がある。最近は変形性膝関節症に対して早期より人工膝単顆置換術 (UKA) を行うことにより、良好な臨床成績を得ている。さらに臨床成績、バイオメカニクス等の研究を進めており、高い評価を受けている。これらの豊富な臨床データを元に積極的に国際学会での学会発表も行っている。

脊椎手術は腰椎椎間板ヘルニア摘出術、腰部脊柱管狭窄症に対する後方除圧術、頸椎椎弓形成術が主に行われているが、最近はインプラントを用いた多椎間固定術の件数が増加してきている。

これらの専門性のみならず、地域医療の中核病院としての役割を果たすべく一般整形外科疾患の治療や、救急医療に力を注いでいる。



▶主な手術件数



当院ではH19年4月から脊椎手術を本格的に開始し、昨年度は111例の脊椎手術を行いました。多くは腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症に対する後方手術、頸部脊髄症の手術でした。最近ではインプラントを用いた脊椎固定術の件数が増加してきております。

腰椎椎間板ヘルニアは安静や投薬、ブロック注射などの保存的治療で十分な効果が得られない場合に手術の適応となります。最近では内視鏡手術を行う施設が増えてきておりますが、当院では後方から直視下にヘルニアを摘出してしております。腰痛が強い場合や、重労働をする患者様、再発ヘルニアなどの場合は固定術を追加することもあります。

腰部脊柱管狭窄症は増加傾向にあります。起立時間、歩行距離の短縮などによりADLが障害される場合に手術の適応があります。馬尾障害による尿閉などの膀胱直腸障害や、下肢の麻痺が生じた場合はできるだけ早く手術をしないと、症状が十分に回復しません。手術では後方から椎弓を削除することにより、神経の圧迫を解除します。すべり症など骨切除により不安定性が生じる可能性がある場合や変形を矯正する必要がある場合は、固定術を追加します。

手術後2日でコルセットを装着し離床となります。術後2、3週程度の入院が必要です。コルセットは3か月程度（固定術を追加した場合は骨癒合するまで）装着していただきます。

頸部脊髄症では手足のしびれ、箸が使いづらいなどの巧緻運動障害、歩行がごちなくなるなどの症状が生じます。症状がしびれのみの場合は、経過観察としますが、運動障害を認める場合は手術を行います。手術はほとんどの場合、椎弓形成術（拡大術）を行います。有病期間が長く、術前の症状が重症なほど術後の回復が不十分となりやすく、早めの手術をおすすめします。

手術後2日で頸椎カラー（装具）を装着し離床となり

ます。頸椎カラーは術後1～2週ほど装着します。

手術以外にも近年増加傾向にある高齢者脊椎圧迫骨折に対する入院による保存的治療も積極的に行っております。高齢者圧迫骨折は容易に椎体圧潰が進行し、楔状化変形や、偽関節を生じやすく、生じた脊椎の後弯変形や遷延する背部痛のために患者さまのQOLを著しく低下させるため、初期治療が極めて重要であると考えます。当院では基本的にまず入院安静とし、MRIを撮像し、骨折の見逃しがないようにしております。そして、患者さまのADL、年齢、体格などを考慮し外固定は体幹ギプス固定から硬性、半硬性コルセット、軟性コルセットをそれぞれ選択し、可及的早期に装着できるようにしています。

脊椎は今年度も堤、中川、中島の3人体制で診療しております。外来には3名のうちのどれかが必ずでておりますので、安心してご紹介ください。



第4腰椎変性すべり症による脊柱管狭窄症 固定術後正面 固定術後側面



頸椎後縦靭帯骨化症 CT 椎弓形成術後レントゲン 術後MRI

▶ 医師紹介

● 副院長

兼整形外科主任部長兼リハビリテーション部長 **寺内 正紀**

昭和59年卒（医学博士）／日本整形外科学会専門医／日本関節学会評議員／ISAKOS（国際関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会）会員／身体障害者福祉法指定医／インフェクションコントロールドクター

● 整形外科部長 **堤 智史**

平成3年卒（医学博士）／日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医／日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医／日本脊椎脊髄病学会クリニカル・フェロー／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

● 整形外科医長 **中川 由美**

平成7年卒／日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医／難病指定医

● 整形外科医長 **畑山 和久**

平成11年卒（医学博士）／日本整形外科学会専門医／膝関節フォーラム世話人／ISAKOS（国際関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会）会員／JOSKAS（日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会）評議員、関節鏡技術認定医（膝）／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

● 整形外科医長 **中島 飛志**

平成11年卒（医学博士）／日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医／難病指定医／身体障害者福祉法指定医

● 整形外科医員 **下山 大輔**

平成19年卒

週間朝日MOOK

【手術数でわかるいい病院】で、
当院がランクインしました。



全国ランキング
人工関節置換術 膝関節
第24位（関東7位）

産婦人科

▶ 伊藤 理廣 〈副院長兼リプロダクションセンター長〉

〔スタッフ〕

常勤：伊藤理廣（副院長兼リプロダクションセンター長）、太田克人（産婦人科主任部長）、安部和子（医長）、矢崎 淳（医員）、周藤 周（医員） 計 5 名

〔特色〕

当科の診療の特色は、小児科と連携した地域周産期センターの役割を長年果たしてきていることにある。内科や麻酔科の全面的な協力のおかげで、合併症妊娠や緊急手術にも対応し、双胎妊娠の管理数は県内でも突出している。また、母体搬送も基本的に全例受け入れるつもりで、小児科と協議しながら取り組んでいる。分娩数は長期低落傾向に歯止めがかからず、危機的状況である。今後病棟の個室化など、産婦のニーズにあった医療の提供を考える必要がある。婦人科の婦人科内視鏡、不妊治療にも力を入れている。群馬大学産科婦人科学講座教授の岩瀬明先生と医局長の北原慈和先生にそれぞれ週1回腹腔鏡手術の指導にきていただき、若手の指導体制を充実させている。

外来患者数は院内で科別で最も多く、待ち時間の長いことが問題となっていて、予約患者優先を徹底し、待ち時間減少をはかっている。

手術件数は、内視鏡手術が充実し、県内外から広く患者が訪れてきている。現在、日本産科婦人科内鏡学会技術認定医 認定研修施設に指定されている。

不妊症・不育症のスペシャリティを強化するため、最新かつ最高の設備を導入したリプロダクションセンターを開設した。日本生殖医学会の認定研修施設となり、更に日本生殖免疫学会認定不育症治療施設となり、県内一



充実した不妊不育治療から分娩迄シームレスに診療できる施設を目指している。体外受精も日本産科婦人科学会の会告を遵守し、認定胚培養士を採用し、凍結、顕微授精も含めたフル仕様の生殖補助医療を行っている。がん患者に対する生殖医療も行う準備が整った。認定不妊看護師、生殖医療コーディネーターを擁し、不妊患者を四方四維からサポートしている。

専攻医研修に関しては、日本産科婦人科学会の総合型研修病院に認定され、日本産科婦人科学会の周産期登録、癌登録、体外受精登録に参加している（県内では、当院と大学のみ）。

▶ 医師紹介

●副院長兼リプロダクションセンター長 伊藤 理廣

昭和 60 年卒（医学博士）／日本産科婦人科学会専門医・指導医・代議員／日本生殖医学会専門医代議員／日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医・評議員・幹事／日本内視鏡外科学会技術認定制度技術認定医（産科婦人科）／群馬産婦人科学会副会長／母体保護法指定医／日本生殖免疫学会評議員・編集委員／日本哺乳動物卵子学会評議員・Journal of Mammalian Ova Research 編集委員／ベスト・ドクターズ 2012～2013／難病指定医

●産婦人科主任部長 太田 克人

昭和 62 年卒／日本産科婦人科学会専門医／母体保護法指定医

●産婦人科医長 安部 和子

平成 7 年卒（医学博士）／日本産科婦人科学会専門医／厚生労働省認可麻酔科標榜医

●産婦人科医員 矢崎 淳

平成 19 年卒／日本産科婦人科学会専門医

●産婦人科医員 周藤 周

平成 27 年卒

リプロダクションセンター

不妊症と不育症の治療をトータルに行い、患者さんの挙児の希望を叶えるべく取り組んでいます。不妊に悩む方への特定治療支援事業指定医療機関に指定されました。

1978年にイギリスでエドワーズとステプトウにより初の体外受精児が誕生、日本では1983年に東北大学で初の体外受精児が誕生し、今現在も日本国内で年間4万人の赤ちゃんが、体外受精によって誕生しています。最新の体外受精機器を駆使し、顕微授精、胚凍結を含めた生殖補助技術による治療を日本産科婦人科学会の会告に基づいて行います。

胚の培養は日本卵子学会認定の胚培養士が行います。

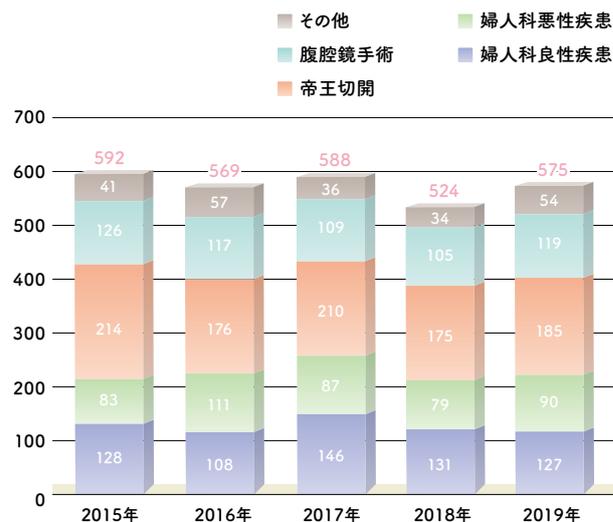
胚の培養にあたっては、最新の取り換え防止システムと画像システムを導入し、細心の注意を払って行います。



▶分娩数及び手術実績等

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
分娩総数	749	657	624	586	565
正常分娩	473	436	379	378	348
吸引鉗子分娩	60	44	35	23	31
帝王切開	214	176	210	175	185

▶手術件数



お産の特典はじめました

当院産婦人科は約60年の歴史があり、**地域周産期母子医療センターに指定**されています。年間分娩数は前橋市内の総合病院では一番多く、約600件です。**小児科と連携**しているので安心して出産に臨めます。医師や助産師数も多く、**ハイリスク外来や助産外来も充実**しています。リスクの低い妊婦さんには、自然分娩を主体としています。助産師がそばに付き添いながら満足できるお産となるようお手伝いします。

令和2年7月より新しいサービスとして**ハッピーリターン特典**を始めました。当院で2回目の分娩をされた方へのプレゼントです。内容は紙オムツと乳房マッサージ割引券のプレゼント、お祝いディナー時のご兄弟へのお子様ランチサービスとなっています。前橋市内でも出生数が減る中で、当院を選んで出産をしてくださった方々への感謝の気持ちです。

また当院の産婦人科の紹介のために**「出産を迎えられる皆様へ」**という小冊子を作成しました。「総合病院で出産したいけど受診方法が分からない。」という方も多いようです。小冊子には当院の産婦人科の特徴や受診の方法が記載してあります。妊婦さんが出産する病院を選ぶときの参考になればと考えています。



新生児：
地域周産期母子医療センター
2019年 203人
2018年 217人
分娩数：
2019年 650例

眼科

▶ QOV (quality of vision) を追求して／前嶋 京子〈眼科医長〉

長寿社会になり人は何歳になっても見え方の質 QOV(quality of vision) を求めるようになりました。今日の眼科医療もそれに応えるべく日々医療革新を遂げています。

当科でも微力ながら、患者さんの希望に応えられる眼科医療を目指して日々努力しています。当科での取り組み・特徴についてご紹介したいと思います。

当科では平日午前是一般外来として診療を行っております。緊急性のある疾患については即日レーザー治療や小手術を行っております。CT、MRI も積極的に診断に取り入れ他科との連携を図りながら治療に取り組んでおります。基本的に再診患者さんは予約制として待ち時間を減らすよう努力しております。初診患者さんはいつでも診察可能としています。小児眼科については検査に時間がかかることもあるため午後初診小児眼科外来予約をお薦めしております。視能訓練士は3名常勤でおり、斜視・弱視訓練も数多く行っております。小児の場合1回の検査で診断するのは難しいこともあり、成長発達を見ながらゆっくりと時間をかけて治療をすすめています。月1回小児眼科専門の池田史子先生（日高病院眼科部長）に来て頂き**斜視手術**を行って頂いております。県内において斜視手術可能施設が少ないことから遠方の患者さんが手術目的に来院されております。月・火の午後は手術室で主に白内障手術を行っております。月曜日は横地みどり先生（横地眼科院長）にサポートに来て頂いております。ご高齢の患者さんが多いので白内障手術は基本的に1泊2日もしくは2泊3日入院で行っております。眼科の手術は局所麻酔での手術が多いので手術室スタッフと共に患者さんにできるだけリラックスして手術に臨んで頂けるよう努めております。月2回火曜日午後はロービジョン外来を開設しました。視覚障害者のみならず視機能低下のある方がより生活しやすいように補助具の紹介や補助具の選定、インターネット含めた様々なサービスの紹介等を行っております。まだまだロービジョン外来として始動したばかりで、患者さんと共に手探りのこともあります。視覚障害者への理解と支援のために微力ながら力になればと思っております。

また、当院併設健康管理センターでの人間ドックで目の異常を指摘され当院眼科を受診される方もいます。とりわけ**緑内障疑いの患者さんが近年増加**しています。日本における失明原因第1位は緑内障であり、日本緑内障学会で行った大規模調査（多治見スタディ）によると40歳以上の20人に1人の割合で緑内障の方がいると言われています。緑内障治療も早期発見・早期治療により以



前より失明に至る患者数は減少してきています。緑内障は慢性疾患とも言われており、治療も長年に渡るため、科を超えて地域の先生方と関わるが多いと思います。その際は必要な情報を共有しながら患者さんの治療に携わっていただければと思います。

まだまだ眼科医療として課題も多くありますが、目のことでお力になれることがあればいつでもご相談頂ければと思います。

▶ 診療

	月	火	水	木	金
午前	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来
午後	手術 予約検査	手術 ロービジョン 外来	外来治療 小児予約検査	外来治療 小児予約検査	予約検査

▶ 手術症例



▶ 医師紹介

●眼科医長 前嶋 京子

平成9年卒（医学博士）／日本眼科学会専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●非常勤医師 花田 厚枝

●非常勤医師 横地 みどり

●非常勤医師 池田 史子

耳鼻咽喉科

▶ 工藤 毅 (耳鼻咽喉科部長)

〔スタッフ〕

常勤：工藤 毅 (部長)、内山通宏 (医長) 計 2 名

非常勤：竹越哲男、塚田晴代 計 2 名

〔特色〕

基本的には頭頸部領域の多くの疾患に対応している。2人常勤で、外来診療と入院加療を行っている。手術は、小児の扁桃摘出や鼓膜チューブ留置などに対応している。

外来診療は予約制としており、午前中は2診で行っている(水曜日は1診)。午後は、火曜日と金曜日に嚥下評価を目的とした嚥下外来をおこなっている。また、毎週火曜日の午後に元部長の竹越医師、月1回水曜日の午後に元医長の塚田医師が診察を行っている。竹越医師の専門はめまいであるが、漢方を活用した診療を特徴としている。塚田医師の専門は小児難聴と補聴器である。検査技師や言語療法士と協力して、難聴精査を行っている。

入院診療は、めまいや扁桃炎といった急性期疾患のほか、突発性難聴や顔面神経麻痺の症例が多い。

外来

午前是一般外来(予約制)

紹介率は約75%です

午後は専門外来

力をいれている分野は嚥下外来です

リハビリのスタッフと連携し、患者さんのQOL向上をめざしています

そのほか、竹越医師(めまいや漢方など)や塚田医師(小児難聴など)も午後の専門外来の枠で診察しています

入院

主な疾患

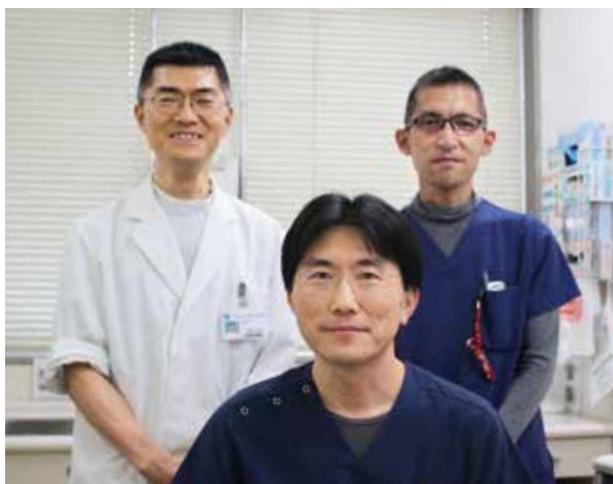
急性扁桃炎・扁桃周囲炎などの炎症性疾患

めまい・突発性難聴・顔面神経麻痺などの急性疾患

小児の扁桃腺摘出・アデノイド切除・鼓膜チューブ留置 など

小児科が充実している当院の特徴を生かしたいと思えます

詳しくは地域医療連携室までお問い合わせください



▶ 耳鼻咽喉科 入院患者数

〈2018年度…293名〉

めまい	48名
急性扁桃炎 / 咽喉頭炎	57名
扁桃周囲炎 / 膿瘍	36名
急性喉頭蓋炎 / 咽喉頭浮腫	28名
蜂窩織炎 / 頸部膿瘍	3名
顔面神経麻痺	30名
突発性難聴	70名
その他	21名
合計	293名

〈2019年度…401名〉

めまい	69名
急性扁桃炎 / 咽喉頭炎	67名
扁桃周囲炎 / 膿瘍	55名
急性喉頭蓋炎 / 咽喉頭浮腫	22名
蜂窩織炎 / 頸部膿瘍	6名
顔面神経麻痺	32名
突発性難聴	74名
その他	26名
アデノイド切除 / 扁桃摘	37名
先天性耳瘻孔	4名
鼓膜チューブ留置	9名
合計	401名

▶ 医師紹介

●耳鼻咽喉科部長 工藤 毅

平成11年卒 / 耳鼻咽喉科専門研修指導医 / 耳鼻咽喉科専門医 / 難病指定医

●耳鼻咽喉科医長 内山 通宏

平成14年卒 / 身体障害者福祉法指定医

●非常勤 竹越 哲男

●非常勤 塚田 晴代

歯 科

▶平林 晋 (歯科部長)

〔スタッフ〕

部長 平林 晋、歯科衛生士 3名 計4名

〔特色〕

当院歯科では、幼少児から御高齢の方々まで広い年齢層の診療をしています。また、他科病棟に入院中および、通院中の患者さんの歯科治療も行っております。また当院の附属介護老人保健施設の入所者やデイサービス通所者の治療、さらには、病院歯科の使命として、開業医の先生方より、紹介された患者さんの、歯科治療も併せて行っています。

〔診療実績〕

平成 29 年、30 年、元年の紹介患者率は、それぞれ、16.8%、15.4%、17%とやや上昇しています。これは、周術期口腔機能管理、糖尿病教育入院の患者さんが増えたためと思われる、これからも、群馬県歯科医師会も進めている病診連携会への参加と、地域医療連携室の活用を積極的に行いたいと思っています。

初診患者さんの主訴別分布は、**周術期口腔機能管理、歯周病 (DM教育入院含む)、外科的疾患が上位を占めています。**当科では、抜歯 (埋伏抜歯など) を行う場合、紹介医のもとより十分な情報を得るように努めると共に、遠方の患者さんの場合、診療情報提供書を患者さんに渡し、抜歯翌日からの処置は、紹介医に依頼しています。

また、予防歯科に関しては、PMTC (機械的口腔清掃) を治療の中に取り入れ、さらに希望者にはフッ素の応用をふくめた、定期的なりコールを行っています。さらに人間ドック受診の際に、オプションではありますが、歯科口腔健診を受けられるようにし、また職員健診にも歯科口腔健診をとり入れることにより、職員の受診率と予防歯科への関心が高まるようになっていきます。

平成 23 年 3 月 26 日より、歯科ユニット 2 台が、新しくなりました。平成 25 年 2 月には、**痛みが最も少**



ない歯科治療用レーザー装置である Er:YAG (エルビウムヤグ) レーザーを導入し、臨床応用を行っています。平成 28 年より NST 回診、MRM ラウンドにも衛生士が参加してしており、さらに平成 30 年 8 月より歯科衛生士が、病棟の摂食機能訓練患者の口腔ケアを実施し、病棟 Ns. および ST と連携を取って治療に参加して、高評価を得ています。

〔今後の展望〕

歯科治療は、専門化、細分化される傾向にあり、特に**病院歯科においては、地域医療の中核として使命を果たす必要があると思われます。**開業医の先生方との良好な関係を築き、専門性の強化のため各病院と病診連携を築いていきたいと考えております。さらに、現在行っている併設の老人保健施設入所中者の、口腔ケアに加え、入院患者さんの口腔ケアも行っていきたいと考えています。

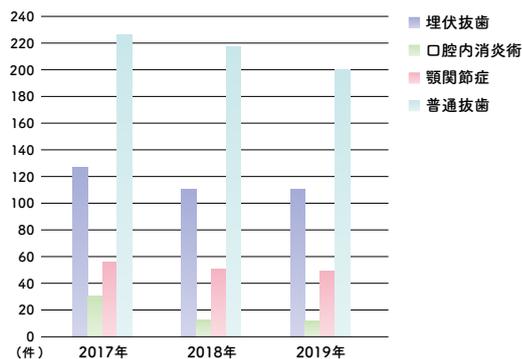
▶医師紹介

●歯科部長 平林 晋

昭和 63 年卒 (医学博士) / 日本病院歯科口腔外科学会会員 / 日本有病者歯科医療学会会員 / 歯科医師臨床研修指導歯科医 / BLS ヘルスケアアドバイザー / Er:YAG レーザー臨床研究会会員

▶歯科小手術処置

	2017年	2018年	2019年
埋伏抜歯	125	110	109
口腔内消炎術	30	17	15
顎関節症	58	52	50
普通抜歯	225	218	200
歯根嚢胞摘出術	4	3	5
良性腫瘍摘出	3	4	4
創傷処置	5	4	3
小帯処置	3	2	2
口腔粘膜疾患	22	25	23
顎関節脱臼	2	2	6



放射線科

▶平澤 聡 (放射線科部長兼放射線部長)

当院の放射線科では常勤医師2名が画像診断とIVRを行っています。

安心をめざして

当院では **STAT 読影** という依頼があり、この依頼を受けるとおよそ **60 分以内を目安に読影レポートを作成** します。この依頼は外来患者さんにその日のうちに検査結果を伝えるためのそのスピードが注目されていましたが、この依頼を受けることで読影レポートの確認不足が減るというメリットがあると感じています。スピードばかりを優先すると、十分な診断ができない心配も出てきますが、**STAT 読影はそのスピードではなく、安全・安心な診療に重点を置いたシステム**と位置づけて、今後も取り入れていきます。

業務について

平成 29 年度より単純写真は各診療科にお願いすることになりましたが、画像の相談はいつでも受け付けています。CT、MRI は、引き続きすべての症例を読影しています。さらに健診部門の胸部 X 線、胃透視、マンモグラフィの一部読影を担当しています。

IVR は非血管系手技 (生検、ドレナージ) を中心に行っています。ドレナージは急を要するものも多いため迅速な対応を心がけています。血管系 IVR は主に止血術 (消化管や婦人科) を行っています。また肝動脈動注塞栓療法 (TACE) が増えており、消化器科医師と群馬大学医学部附属病院の IVR 医の協力のもと、検査・治療を行っています。

連携

放射線科は各診療科との連携が不可欠です。画像診断報告書の作成だけでなく、必要な症例は随時電話連絡を行うなど医療安全に配慮して業務を進めて参ります。また、画像診断の精度を上げるために各診療科とのカンファレンスも積極的に行っています。

検査機器について

当院では 64 列の MDCT 2 台、3T (テスラ) MRI 1 台、フラットパネル血管造影装置、その他デジタル撮影装置、PACS (画像管理システム) が画像診断を支えています。



CTガイド

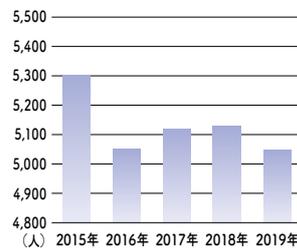


3テスラMRI

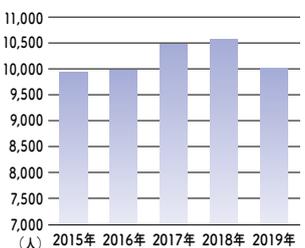
▶年度別検査件数

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
MR	5,299	5,048	5,112	5,135	5,044
CT	9,917	9,975	10,480	10,609	10,003
血管撮影	340	343	302	354	351
一般撮影	25,650	20,761	21,065	20,695	19,828
TV 検査	715	761	891	680	556
乳腺	201	218	223	232	203
歯科	674	607	689	821	942
骨密度	398	768	1,011	948	914

▶ MR 撮影人数



▶ CT 撮影人数



▶医師紹介

●放射線科部長兼放射線部長 平澤 聡

平成 10 年卒 (医学博士) / 日本医学放射線学会放射線診断専門医・放射線科専門医 / 日本インターベンショナルラジオロジー学会認定 (IVR) 専門医

●放射線科医員 小松 嵩和

平成 27 年卒

病理診断科

▶ ウィズコロナにおける病理診断科 / 櫻井 信司 (病理診断科主任部長兼臨床検査部長)

現在、当院の病理診断科は常勤の病理診断医（私）一名と、細胞検査士三名を含む臨床検査技師七名で構成しています。ここ数年、病理診断科に提出される組織件数は年間 3,700-4,000 件前後、細胞診の検体数は一万件を越え、婦人科領域の診断数は県内でもトップクラスにあります。近年、組織検体に占める前癌病変、悪性病変の割合は右肩上がりに上昇しており、2019 年度は前年度より 10 ポイントも上昇し、67%に達しました。患者さんの高齢化に伴い、悪性、腫瘍性病変の発生件数が増加するのは自然の流れで、患者さんを診察する際には、腫瘍の合併を常に念頭に入れなければならない状況と考えます。

しかし、今年にはいつからの新型コロナ COVID-19 のパンデミックにより、患者を受け入れている病院はもちろん、他の病院、診療所においても日本中で受診抑制がおきています。当院の健診センターも 4,5 月は検診の受け入れを中止し、6 月に入ってから徐々にスタートし始めたところで、このまま健診やがん検診、外来受診の抑制が常態化すると、悪性腫瘍を含め、多くの疾患の早期発見早期治療に支障をきたすのではないかと危惧されます。たださえ日本人女性の乳がん、子宮がん検診受診率は世界的に最低のレベルにあり、日本は子宮頸癌の死亡率が先進国で唯一増加し続けている国です。他の癌もふくめ、現在の受診抑制が癌の早期発見、早期治療の遅れにつながることを祈るばかりです。

ウィズコロナの時代における働き方改革として、世間ではリモートワークが盛んに推奨されています。医療現場においても遠隔診療が認可されるなど、時代は大きく変わってきましたが、そうはいつても患者さんを診察する医療従事者は、やはりリモートワークから一番遠い仕事のひとつではないでしょうか。病理診断も、一部では組織標本全体をデジタルで取り込み、パソコン上で観察することのできるヴァーチャルスライドが普及しつつあり、遠隔診断が保険診療としても認められています。そうであるなら病理医は自宅で仕事ができるのでは？と思われるかもしれませんが、確かに業務の一部は自宅でも可能でしょう。しかし、病理医は一枚の標本だけで診断をしているわけではありません。臨床経過や他の検査結果、複数の臓器、複数の科より提出される同一患者の検体から、総合的に病態を推測、診断する事も少なくありません。病理医も顕微鏡を通して患者を診る臨床医なのです。カルテの情報や主治医、検査技師とのディスカッションなしには、迅速、正確な診断は不可能で、リモートワークで診断というわけにもなかなかいかないのです。

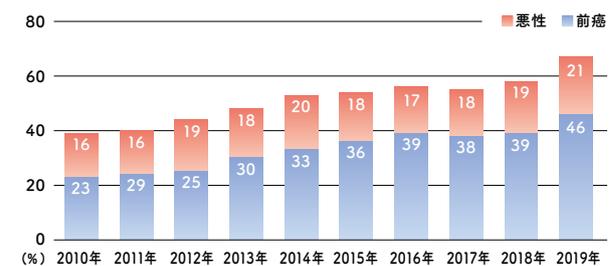
またコロナ感染がひろがる中、学会などの指針もあり、日本中の病院で病理解剖の実施が抑制されています。現在、群馬大学も外部施設の剖検依頼は断っているようです。たださえ世界で最低レベルの剖検率、死因不明社会と言われるこの日本で、これ以上剖検数が減少したら我々医師や患者遺族は、行われた医療について、どうやって見直しをしたらよいのでしょうか。現在のところ、すべての患者に COVID-19 の PCR 検査を実施することは困難であり、検査を行ったとしても偽陰性の可能性がある以上、感染リスクが 100%ない症例など存在しません。しかし、だからといって診療や剖検を怖がってばかりもい



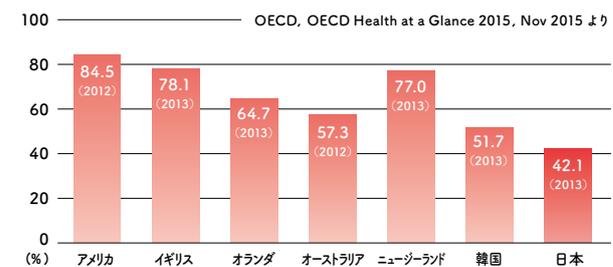
れません。事前の検査や十分な対策を取ったうえで、必要な症例については病理解剖ができる体制の整備を、国として考えるべきでしょう。

ウィズコロナの時代、どこの職場も少なからずリスクと背中合わせの日常ではありますが、病理医として微力ながら地域医療に貢献できればと考えています。

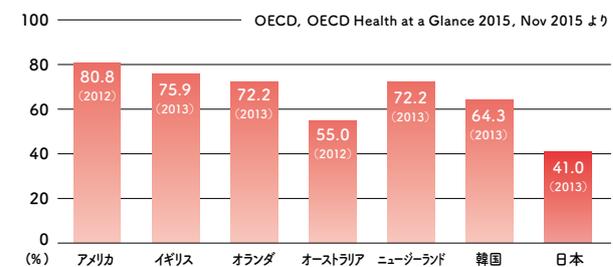
▶ 前癌・悪性病変の割合 (最近10年間の推移)



▶ 子宮頸がん検診受診率



▶ 乳がん検診受診率



▶ 医師紹介

●病理診断科主任部長兼臨床検査部長 櫻井 信司

平成 2 年卒 (医学博士)

日本病理学会病理専門医 / 日本臨床細胞学会認定細胞診専門医・指導医 / 死体解剖資格 / 国際病理学会正会員

皮膚科

▶ 龍崎 圭一郎 (皮膚科部長)

2018年4月から皮膚科は常勤化され、2年4ヶ月が経過しました。

地域の先生方からは多くの患者様をご紹介頂き、誠にありがとうございます。

皮膚科で扱う疾患は皮膚に生じた異常全般になり多岐に渡っています。当科では湿疹や白癬など一般的な皮膚疾患の他に、膠原病、皮膚腫瘍（良性、悪性）、水疱性類天疱瘡などの自己免疫性水疱症など皮膚疾患全般の診療を行なっています。皮膚疾患全般を担当する中で皮膚外科にも注力して診療に当たっていきたいと考えています。

昨年度の実績は、1日平均外来患者数は18人、1日平均入院患者数は1.6人、手術件数は93件でした。診察は平日毎日午前と木曜日午後におこなっており、受診は予約だけではなく予約外でも可能です。手術は水曜日と木曜日の午後に、主に局所麻酔で行なっています。水曜日は手術室で皮膚腫瘍切除（良性、悪性）、皮弁形成や植皮などを行ない、木曜日は外来処置室で簡単な皮膚腫瘍切除や皮膚生検を行なっています。

毎週金曜日午後に院内褥瘡患者のカンファレンスと回診を行なっています。医師、看護師の他に薬剤師、検査技師、栄養士が参加した多職種によるチームを形成し、褥瘡発生予防や早期治癒に努めています。

入院治療が必要な患者さんを随時受け入れ、当院で診療困難な場合は群馬大学皮膚科に紹介しています。

一人常勤であるため微力ではありますが、精一杯努めさせていただきますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



JCHO 群馬中央病院皮膚科 週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	龍崎	龍崎	龍崎	龍崎	龍崎
午後	—	—	手術（手術室）	外来手術・検査 龍崎	褥瘡回診

▶ 医師紹介

●皮膚科部長 龍崎 圭一郎

平成5年卒 / 日本皮膚科学会皮膚科専門医 / 難病指定医

独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院 ホームページのご案内

<http://gunma.jcho.go.jp/>

内容は随時更新していきますので、度々ご確認いただくことをお勧めいたします。

 群馬中央病院公式 Facebook

<https://www.facebook.com/gunmatyuoubyouin/>

群馬中央病院の情報を随時更新しています。
ぜひチェックしてください。

JCHO 群馬中央病院 診療担当医一覧表

受付時間：午前8時～午前11時(耳鼻咽喉科のみ、午前10時30分までの受付)、休診日：土曜、日曜、祝日、年末年始(12/29～1/3)

2020年9月1日

診療科・曜日		月	火	水	木	金	
内科	総合内科(初診)	午前	齋藤	小保方 阿久澤	今井 阿久澤	北原(陽)	佐藤 阿久澤
	一般(予約)	午前		阿久澤 大山	田嶋 阿久澤	今井(循環器) 田嶋	阿久澤 大山 長谷川
		午後	今井(循環器) 田嶋	北原(陽)(循環器)	今井	大山	田嶋
	循環器内科(予約)	午前	羽鳥 吉田 田村(不整脈 2・4 週)	羽鳥	吉田	須賀	
		午後		須賀			羽鳥
呼吸器(予約)	午後		相川	解良	小池	蜂巢/土屋	
和漢診療科		午前	小暮	小暮	小暮	小暮 山本(佳)	小暮
		午後	小暮		小暮(リウマチ)	小暮	
神経内科(予約)		午前	大沢	菅原			大沢
		午後	金子	菅原	大沢		
消化器内科	初診	午前	堀内	田原		湯浅	
	予約	午前		小川	堀内 小川		湯浅 堀内
		午後			田原	岡村	
糖尿病センター(予約)		午前	根岸 須賀	根岸 有山			根岸 登丸
		午後		フットケア		根岸	
小児科	一般	午前	河野 田代	須永 田代	水野 田代	須永 橋本 田代	須永 河野
		午後(予約)	春日(神経・専門) 橋本(神経・専門)		田代(循環器) 高橋(専門 1・3・5 週) 新井(専門 2・4 週)	田代(循環器)	迫(神経・専門)
	小児外科			山本(午前)			
	神経発達(予約)	午前	須永		須永		須永
		午後	須永	須永	須永		須永
	アレルギー(予約)	午前					水野
		午後	水野			水野	水野
	腎臓(予約)	午後				高木	岩脇
	発達フォロー(予約)	午後		河野	河野	河野	
乳児健診(予約)	午後		岩脇 高橋				
予防注射(予約)	午後			春日 坂本			
外科	一般・消化器	午前	内藤 深澤 田部	福地 谷 岩崎 調(肝・胆・膵) 【紹介のみ】	福地 斎藤 西川 阿部(心臓血管外科)	内藤 深澤 渡辺(肝・胆・膵)	谷 斎藤 田部
		午後(予約)		山口 (脳神経外科14:00～)		大瀧(呼吸器外科) 長嶋(緩和ケア外科)	
	乳腺・甲状腺(紹介)	午前				矢島	
		午後	藤井(14:00～16:00)				
整形外科		午前	寺内(膝) 堤(脊椎) 中川(脊椎) 中島(脊椎) 【紹介のみ】	寺内(膝) 畑山(膝) 中島(脊椎) 下山	中川(脊椎) 畑山(膝) 下山	堤(脊椎) 中川(脊椎) 中島(脊椎)	寺内(膝) 畑山(膝) 堤(脊椎) 下山
		午後(予約)					畑山(第1・第3金曜日)
産婦人科	一般	午前	伊藤 金井	内山 伊藤(8:30～10:00)	太田 矢崎	伊藤(不妊不育) 太田 周藤	伊藤 安部
		午後(予約)	太田(検査)	金井 手術	太田 矢崎(産後)	伊藤(術前)	太田(検査) 安部
	妊婦健診	午前	周藤	安部	(8:30～10:00) 田中 (10:00～) 伊藤	矢崎	岡庭
午後(予約)		周藤		(13:00～14:30) 伊藤	篠崎(ハイリスク)		
眼科		午前	前嶋	前嶋	前嶋	前嶋	前嶋
耳鼻咽喉科(予約)		午前	工藤 内山	工藤 内山	内山	工藤 【紹介のみ】 内山 【紹介のみ】	工藤 内山
		午後	検査	内山(嚥下) 竹越	検査 塚田		内山(嚥下)
麻酔科		午前	大川	川崎	富岡	高橋	富岡
皮膚科		午前	龍崎	龍崎	龍崎	龍崎	龍崎
		午後(予約)				龍崎	
泌尿器科		午前			羽鳥		
歯科(予約)		午前・午後	平林	平林	平林	平林	平林

【ご案内】

- ①医療機関等からの紹介状をお持ちの方は、できるだけ事前に予約して頂くようお願いいたします。
- ②一部の診療科については予約制、紹介型外来等を行っております。
 - ・予約制外来 原則、午後は和漢診療科以外の診療科は予約制となっております。終日予約(神経内科、耳鼻咽喉科、歯科、禁煙外来)
 - ・紹介型外来 乳腺・甲状腺(月曜日の午後・木曜日の午前)、耳鼻咽喉科(木曜日の午前)、脳神経外科(火曜日の午後)
- ③その他
 - 消化器内科は、水曜日と金曜日は予約外来のみとなっております。
 - 整形外科は、月曜日と金曜日の初診受付については、紹介状持参患者のみとなっております。
 - 総合内科は、初診・紹介状持参患者のみとなっております。
 - 緩和ケア(精神科)は、他科からの紹介患者のみ外来診療を行っております。第1・3・5週の木曜日の午後 第2・4週の木曜日の午後



※群馬ロイヤルホテルの駐車場も利用できます。(午前中のみ)

[交通機関]

- ①両毛線前橋駅下車、関越交通（土屋文明行き、群馬温泉行き）・群馬中央バス（高崎駅行き）に乗り「中央病院入口」下車徒歩1分
- ②上越線新前橋駅下車、群馬バス・群馬中央バス前橋駅行きに乗り「中央病院入口」下車徒歩1分
- ③関越道前橋インター、渋川新潟方面出口、国道17号約10分
高崎方面より来院される方は、群馬大橋を渡り終えた群馬大橋東詰が県庁南の信号が、右折できます。

ご来院の際は、気をつけてお越しください。

[地域医療連携室直通連絡先]

TEL. **027-223-1373**

FAX.027-223-1374

(平日 午前8:30～午後6:00)

[診療のご案内]

受付時間

午前8:00～午前11:00(耳鼻咽喉科のみ10:30まで)

午後1:00～午後4:00 ※午後は原則予約外来です

休診日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)



独立行政法人 地域医療機能推進機構

群馬中央病院

〒371-0025 前橋市紅雲町1丁目7番地13号

Tel. 027-221-8165 Fax. 027-224-1415 gunma.jcho.go.jp